

ラーフラ／悪魔

2016年12月30日

仏教の開祖である「お釈迦様」には、「ラーフラ」(悪魔の意)という子供が出家直前の29歳の時生まれている。なぜ釈迦ともあろう人物が我が子に「悪魔」(ラーフラ)などという、とんでもない名前を付けたのだろうか？。山折哲雄が「それは愛欲という煩惱の所産に過ぎない子供の誕生」だから、子供は所詮、煩惱＝悪魔の産物でしかない！と29歳の無知な男が単なる思いつきで名づけたのであろう、が如き蘊蓄を「ブツダは、なぜ子を捨てたか」で述べているようであるが、山折哲雄にしても手塚治虫にしても彼ら自体が時代の寵児としての傲慢から恰好いい言い回しをしたのであろう。

私の哲学は、「悪魔」(ラーフラ)とは、「煩惱などという小賢しいエゴなどではなく、**悪魔とは神を妬み神を殺す有情である**」と断言できるのであって、凡そ生ある全てのものが持つ、自己以外の「もの」＝『異物』が「悪魔」(ラーフラ)なのである。だから自分が『神＝自然の子』であると自覚したのものにとっては、自分に同化しない以外の異化物は全て『異物』であって「悪魔」(ラーフラ)となるのである。例えば、「人類は全て**清貧**で生きよ！**清貧**を忌み嫌うものは悪魔である！」と、神が言ったとすれば、**清貧**での生活を忌み嫌い贅沢三味のグルメ生活を夢見て毎日よだれを垂らして間抜けな自堕落な生活を恣にしている99.99%の世界中の凡人は、悪魔に魂を奪われた腑抜けな「悪魔の奴隷」ということになり、「万一」の悟りが得られない限り、人類は我が子を悪魔の供物として火の中に投げ込むのである。

現代に繋がる「供養」の儀式は、悪魔のご機嫌を損なわないように、悪魔の一番のグルメである人間の赤子を生きたまま火の中に投げ込み丸焼きの火炙りにして悪魔に捧げるのである。赤子は地獄の泣き声を発し丸焼きにされて死んでいくのであるが、その余りの泣き声の凄まじさに、流石の供養者もその赤子の絶叫に耐え切れず、太鼓をならし、ドラをならし、爆竹をならし、その赤子の絶叫を吹き消すのである。それが現代に続く「供養」の実態である。それから比べれば釈迦が生まれたばかりの我が子に「ラーフラ」(悪魔)という名前を付けたからといっても大した悪業とは言えないが、それにしても出家前の釈迦の知能は、先年我が子に「悪魔」と名前を付けて物議を醸した青年(父親)と同程度だったということである。出家前の釈迦は、単なる凡人であり、俗人であり、悪魔的人物であったということである。そのことに気がついて釈迦は愛する妻子を捨てたのか！？。釈迦は妻子を捨てたのではない！。自分自身を捨てたのだ！。その後、釈迦の子の「ラーフラ」(悪魔)は、釈迦の十大弟子の一人である学習第一の智者・羅睺羅(ラゴラ)となって生涯を送っている。

2016年の年末にあたり、私は何を言わんとしているのか！？。

畢竟、現代人の99.99%＝一万人の中の9999人は、『餓鬼道』(グルメ)によだれを垂らしている「悪魔の奴隷」である。だから安倍晋三のような戦争屋＝死の商人の手先／田布施一味を、これよしとして、のうのうと博奕経済の胴元(総理大臣)をさせているのである。

だが、『万一』という『神＝自然の子』の存在を忘れてはならない！！。

一万人の中のたった一人は『神に等しい人物』がいるのである。現在地球上に70億人超の人類がいるとすれば、 \div 一万人＝70万人超の『神に等しい人物』がいるのであって、この地球は助かる確率が万が一あるのだ。例えば**ホセムヒカ**のような**清貧**の大統領である。

我が国日本も127,094,745人超 \div 一万人＝12,709人超の『神に等しい人物』がいるので、来年ぐらいはもちそうであるが、トランプの激情政治＝劇場政治が台頭するとすれば、世界は必ず戦争になり、2020年の東京オリンピックは、1940年の東京オリンピックと同じ運命に陥り、世界戦争のために『中止』となることは明白である。

貴方は『グルメにうつつを抜かし餓鬼道でのた打ち回って死んでいく悪魔の奴隷』で生涯を送るのか！？、それとも『万一』の『善人＝神仏の弟子』として生きていくのか！？。

●私は悪魔の奴隷になりたくない。だから悪魔を退治し、悪魔の奴隷となっている衆生の自覚／目覚めを促す『諫言』を生涯言い続けるのである。目覚めよ！「悪魔の奴隷達よ！！」。